

(仮訳)

プレス・リリース

2014年6月26日
バーゼル銀行監督委員会

バーゼル銀行監督委員会が監督カレッジに関する諸原則改訂版を公表

バーゼル銀行監督委員会（以下、「バーゼル委」）は、本日、「実効的な監督カレッジ運営のための諸原則」（以下、「諸原則」）を公表しました。本諸原則は、2010年公表の文書（改訂前版）をバーゼル委メンバーが適用した際の経験に加え、カレッジの役割や運営に係る新たな取組を反映しています。また、国際的に活動する銀行や、ホーム・ホスト当局間の議論も踏まえて作成されたものです。

金融危機により国際的に活動する銀行グループに対する実効的な監督において監督カレッジが果たす役割の重要性が明らかになりました。本諸原則は監督カレッジを運営する際のガイドラインを提供することにより、国際的に活動する銀行に対する国際的な連携及び監督を促進・強化することを目的としています。また、本諸原則は、バーゼル委が公表している、国際的な連携及び情報共有に係る広範なガイドラインを補完するものです。

主な変更点は以下のとおりです。

- ホーム当局とホスト当局が実効的かつ適時の情報交換を行うために適切な枠組みを整備し、十分なリソースを投入することへの期待に加え、継続的な協調と情報共有を行うことに一層の重点を置いています。
- システム上重要な銀行などに対するカレッジ及び危機管理グループ（CMGs）については、各々の役割の違いを明確化しています。また、危機への備えに関して、監督カレッジとCMGs間の適切なコミュニケーション及び協調に係るガイドラインを提供しています。
- マクロプルーデンスに関する情報が如何に共有され、利用されるべきかについて、原則全体に織込んでいます。

バーゼル委議長を務めるスウェーデン中銀のステファン・インゲベス総裁は「国際的に活動する銀行には、固有のリスク及び監督上の課題が存在する。実効的なカレッジに関するバーゼル委の諸原則改訂版は、監督当局がお互いのコ

コミュニケーション・連携・情報共有の在り方について継続的な改善を促すことによって、こうした監督上の課題を克服するのに資することを企図している。」と述べています。

本文書の市中協議は2014年1月より行われました。バーゼル委は、市中協議中にコメントを寄せてくださった全ての方に感謝申し上げます。